

岩崎弥太郎「岩崎弥太郎書簡」

明治10（1877）年3

月4日

拝啓仕候。今般新潟丸

にて、社員川田小一郎そく息龍吉、

石川七財二男じなん正吉、兩人

機械学英学しゆぎょうのため為修行

御地へ差立候に付ては彼かれ

是御面倒の御事とこれ奉存候ぞんじたてまつりそうち

へ共何卒可然様御教示えどもなにとぞしかるべきよう

御世話被仰付度おおせつけられたくひとえにいのり偏奉

祈たてまつり申候。右兩人は小生腹心

の社員すなわちの者にて則同人等

の成立は万々於小生も希しょうせいにおいて

望の儀に付、万端宜敷よろしき

よふ御引立被遣度つかわされたく千万

御依頼申上候。当今薩人

等西郷氏を魁かいとし、逞兵

壹万五千人の猛勢にて

昨三日朝より夜通し今日十

時迄も接戦たえざるよし不絶由、電

報あり。是は肥後地高瀬

木の葉辺の戦なり。是書

状到着仕り候節は、最早

旧聞に属可申候へ共、不ぞくしもうすべくそうらえどもとり

取敢勿々右耳得尊意あえずそうそうのみそんいをえ

申候。余は期後信申候。もうしこうしんをきし

時下厚御自玉奉希候

恐惶頓首

岩崎弥太郎

三月四日

上野全権公使様

御侍史